

教育重視の大学ランキングの 登場に研究大学は何を学ぶか

教育面を重視した新たな米国大学ランキングが、世界大学ランキングで有名なTimes Higher Education (THE) により公表されました。研究力の比重が大きい従来のランキングに対し、学生調査に基づく学生目線の教育評価を含む点が大きな特徴です。THEは教育重視のランキングのさらなる拡大に意欲を示しており、日本版の発表も2017年3月末に予定されています。教育重視の大学ランキングの登場に、研究大学はどう向き合っていくべきか。米国大学ランキングの結果をもとに考えてみたいと思います。

指標のひとつは「教員と学生の交流」

米国大学ランキングで用いられた指標は、学生一人当たりの教育費や教員一人当たり

の論文数などに基づく「資源」、卒業生の給料やアカデミックな評判などに基づく「成果」、学生及び教職員の多様性などに基づく「環境」、そして、教育プログラム数と学生調査に基づく「関与」の4分野です。なお「関与」の原語はengagementで、学生の学習経験や、大学と学生の関係性を意味しています。

学生調査には全米で10万人以上、各大学で最低50人の学生が回答しました。質問は12項目で、「批判的思考力は養われているか」「授業は挑戦心をかきたてるものだったか」「教員と交流する機会があったか」「協同学習の機会があったか」「友人や家族が大学進学を考えた時、自分の大学をどの程度薦められるか」といった内容から構成されています。

最終的に米国大学ランキング

グで評価の対象となったのは、1061大学でした。すべての指標を合わせたランキングでは、1位スタンフォード大学、2位マサチューセッツ工科大学、3位コロンビア大学、4位ペンシルバニア大学、5位エール大学と、有名私立大学が並びます。これらの大学は、豊かな財源を背景に、「資源」や「成果」の分野で高い得点を挙げています。

有名大学も研究と教育の両立に苦戦

しかし、「関与」の得点に限った場合、上位に小規模なリベラルアーツカレッジが並び一方で、多くの研究大学は順位を下げる結果となりました。たとえば、先にあげた全体ランキングでの上位5校のうち、「関与」ランキングの上位20校に入っただのはペンシルバニア大学のみです。ハーバード大学は、全体ランキングでは6位ですが、「関与」ランキングでは600位

800位のまともに入っています。その他、教員一人当たりの研究論文数が多い大学ほど、学生との交流や協同学習の得点が低いとの傾向も見出されました。

また州立大学は私立大学に比べ、学生との交流や批判的思考力の育成等の得点が低いとの結果も出されています。州立の研究大学も、「関与」ランキングでは苦戦しています。たとえば、UCLAは全体ランキングで26位ですが、「関与」ランキングでは213位です。研究と教育は必ずしも対立するものではありませんが、限られた予算の下で多様な要求に直面する州立大学において、研究成果の産出にかける時間と、学生との交流の時間がトレードオフになりがちであることが透けて見えます。

他方、ミシガン大学アナーバー校など、研究力で著名な州立大学のなかにも、「関与」の分野で比較的高い得点を示す事例が見出されます。同大学は、全体ランキングで州立大学トップの24位、「関与」ランキングでも31位です。いかにして研究と教育を両立しているのか、名古屋大学としても学ぶところの多い事例と

なるのではないのでしょうか。

学ぶべきは「学習経験を把握する姿勢」

冒頭に触れたとおり、THEはベネッセとの連携の下、日本でも教育重視のランキングを企画しています。指標としては、高校教員や企業の人事担当者への調査結果が活用される予定です。他方、今年度末に公表予定の初回版では、学生調査は実施されない見込みです。学生調査を用いた大学ランキングが、いずれ日本においても実施されることになるのか否かは、現段階ではわかりません。

大学の教育力を学生調査で測ることの是非は、倫理と方法論の両面から批判的な検討が必要です。他方、学生の視点や経験を重視する米国の姿勢と、その結果として明らかになった研究大学の教育課題は、日本の大学の今後を考えるうえでも示唆に富むものです。特に、自大学における学生の学習経験を把握すること、及び、研究と教育の両立を図る方法を国内外の事例に探ることの2点は、今後のランキング如何によらずとも、個々の大学において進めておくべき課題であると考えます。

(丸山和昭)

「大学教育改革フォーラム in 東海2017」を開催

2017年3月25日(土)、金城学院大学にて「大学教育改革フォーラム in 東海2017」を開催します。

<http://tokai-forum.com/>

日時：2017年3月25日(土) 12:00—17:30 (受付11:00～)

会場：金城学院大学 参加費：2,000円

基調講演：日向野 幹也氏 (早稲田大学大学総合研究センター 教授)
「新しいリーダーシップ教育とディープ・アクティブラーニング」

第139回招聘セミナー「フランスの大学におけるガバナンス」

日時：2017年1月31日(火) 16:00—17:30

ジャン・マリー・フィロック氏 (仏・西ブルターニュ大学 前副学長)

TGUFED セミナー「英語で教える」

中級編

日時：2017年2月16日(木)、20日(月) 13:00—16:00

John Wojdylo 氏 (名古屋大学理学研究科 特任准教授)

入門編

日時：2017年3月13日(月)～16日(木) 13:30—15:00

Kumiko Haas 氏 (UCLA Office of Instructional Development)

詳細はセンターHP <http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp> まで

かわらばんへの皆さまのご意見・ご感想をお寄せください

Eメールアドレス info@cshe.nagoya-u.ac.jp

Higher Education Glossary

高等教育にまつわる用語集

一文要約

One-sentence Summary

一文要約は学習評価技法（Classroom Assessment Techniques）の1つで、学習内容の理解度を容易に把握できる技法です。専門分野を問わず多くの授業で活用できます。授業中に紹介した理論、概念、トピック、キーワードなどについて、学生に一文で要約するよう指示します。その際に、誰による、何のための、誰のための、いつ、どこで、どのように、なぜ（6W1H）の7つの要素をできるだけ多く文章に含めるように指示します。

教員が準備に要する時間は短いものの、学生から集めた文章の評価には少し時間を要します。学生が授業中に取り組む時間は3～5分程度が目安です。毎回の授業終了前に1回実施するのが標準的ですが、15分ごとに1回実施する例もあります。

標準的な教員の準備は、（1）当該の授業または過去の授業の学習内容のうち、特に重要な概念やトピックを選択する、（2）選択したトピックについて、6W1Hに関する要素をリストアップする、（3）模範的な一文要約を作成してみる、の3段階です。学生への指示の仕方は「HIV ウィルスは免疫システムにどう侵入しどのような影響をあたえるか」のような形でもよく、「水力発電とは」や「看護過程の5段階」のような形でも可能です。学生が慣れないうちは「A年代にBによって提唱されたCとDは似た概念だが、CはEとFに基づいた理論であるのに対し、DはGとHに基づいた理論である。」のような一文要約例を示し、キーワードを入れさせる方法もあります。

一文要約は記憶・再生型の用語確認ではなく、抽象度の高い概念や複雑な概念の理解を確認するための技法です。教員は、要約を指示するトピックが、適度な知識の構造化や論理展開を含み、6W1Hに関する情報を含むよう、適切にトピックを提示する必要があります。

一文要約は形成的評価の技法であり、学生の成果を成績評価に含めないようにしましょう。成果は教員が回収して次の授業で優れた要約を紹介したり、多くの学生が誤解している点を指摘するなどのフィードバックを行います。授業の最後に感想や疑問点を書かせている教員は多いと思いますが、一文要約はそれと同じ方法で、比較的簡単に学生の理解度を高めることができます。

（中島英博）

EU、教育改革実施状況調査の結果を公表 ―学生の就職促進に向け教育改革加速―

EU諸国の高等教育進学率が平均で38.7%になり、高等教育学位の取得が失業防止に一定効果をもたらしている。これは欧州委員会が2016年11月に発表の「教育・訓練調査報告書」（2016 Education and Training Monitor）の中で明らかにした点です。

EU委員会は、データに裏付けられた政策立案を重視する観点から各種の調査を実施しており、「教育・訓練調査報告書」はその調査結果をまとめたものです。報告書は初等中等教育、職業教育、高等教育、成人教育

など多様な分野について、欧州委員会の設定する各分野の目標の達成状況を記しています。高等教育については、各国の高等教育進学率の平均を2020年までに40%に高める目標が掲げられています。背景には、国の競争力維持・向上に必要な高度な知識・スキル形成に高等教育が不可欠との認識が一般化してきたことがあります。就職に高等教育修了証が必要になる職業が2025年までに全体の半数に達するという見通しも、これを後押ししています。今回発表された主な調査結果

は以下の通りです。

① EU諸国の高等教育進学率の平均が38.7%に達した。

② 高等教育学位取得者は全般に就職率が高く、修業年限が長い学位ほど就職率が高い。

③ ほとんどの国が学生向けにキャリアガイダンスを実施している。

④ 教育課程にインターンシップ等の職業実習を採用する教育機関が増加している。

⑤ 国として政策的に職場実習を教育機関に推奨する傾向もみられる。

欧州は経済不況や難民問題で揺れています。それだけに、事態改善に教育が一定の役割を担うこと、とくに高等教育に関しては、修了後に学生がしかるべき職業に就けることを重視して

います。関連して、職業・社会生活に必要な知識・スキルの習得に向けて、教育内容の見直しや学生への指導・支援を行うことを各高等教育機関に求めています。各国ともこの方向で活動を活発化させていること、EU全体として教育関係の公財政支出がわずかながら増加していることも明らかにしました。

重要な社会的課題の解決に貢献できる高等教育のあり方を、各国とも真剣に追求しています。EUとしても、データの収集・分析などを通じて、教育改革の進捗状況を明らかにし、さらなる改革を各国に促しています。これらは、日本での大学教育改革の進め方を考える上で参考になります。（夏目達也）

読んでおきたい

この1冊

Great Books on University

『図説 科学史入門』

橋本毅彦 著

ちくま新書 2016年

科学における図像は、思考の深化、他者の説得、コミュニケーションのツールといった重要な機能を果たします。本書は科学図像の研究で知られる著者が、科学に転機を生んだ図像100点を用いて科学史を通説したものです。観察された事象がいかに表現されたかはもちろんのこと、考案された測定器や科学者の研究の様子、どのようにモデル化したかが

わかる図像などが含まれています。

本書の取り組みは、教育の時宜にも適っています。昨今の学生はビジュアルメディアに慣れ親しんでいる世代。プレゼン用アプリケーションを用いる授業も文字の投影ばかりでは勿体ない…というわけで、科学史などの授業においては図像を投影する例をよく見聞します。さらに現代の教育では、学説史を

教えることがますます重要です。いずれ陳腐化するであろう知識を伝達することよりも、学説の転換点を通じて方法論や考え方を身につけさせることに価値があるとされるのです。

各図像の解説ともいえる本文には、科学者自身や発見にまつわるエピソードも織り込まれて、読み物として楽しめる一冊です。そこそこに科学共同体によるさまざまな営みも著されています。アユイの鉱物分類体系がリンネの植物分類体系に影響を受けているとか、スミスの地質地図に対する評価は多数の学者によって作成された別の地質地図があつてこそとか。学説史は科学的方法とともに知的協働のあり方を学ぶ源泉にもなりそうです。（齋藤芳子）

高等教育研究センタースタッフ（2017年1月現在）

センター長 水谷 法美 専門領域：海岸・海洋工学

教授 夏目 達也 専門領域：高等教育学、技術・職業教育論

准教授 中島 英博 専門領域：高等教育マネジメント

准教授 丸山 和昭 専門領域：教育社会学、高等教育論、専門職論

助教 齋藤 芳子 専門領域：科学技術社会論

客員 張 徳偉 （中国・東北師範大学国際・比較教育研究所）

ドナルド・F・ウェスターハイデン
（オランダ・トゥエンテ大学高等教育政策研究所）

浅野 茂 （山形大学学術研究院）

西岡 加名恵 （京都大学大学院教育学研究科）

小方 直幸 （東京大学大学院教育学研究科）

名古屋大学高等教育研究センター

〒464-8601 名古屋市中千種区不老町
Tel 052-789-5696
Fax 052-789-5695

E-mail info@cshe.nagoya-u.ac.jp

URL http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/